

# 聖書宣教会通信

〒205-0017 東京都羽村市羽西2-9-3 Tel 042(554)1710 Fax 042(554)5562 振替・00150-6-34971

## 巻頭言

### 「権力によらず、能力によらず、わたしの霊によって」(ゼカリヤ4:6)

聖書神学舎教師会議長 津村俊夫

主のみわざがみわざとして行われ続けるために必要なこと、それは主のみことばに聞き従うことです。これはサウルに対する主の言葉に明確に示されています。「聞き従うことは、いけにえにまさる」(Iサム15:22)。民の指導者である王にとって、主の命令を守るこそ最重要な事柄です。しかし指導者は目前に迫る大きな困難を「見て」、時にはそのことを忘れることがあるのではないかと思います。

「これは、ゼルバベルへの主のことばだ」

神殿再建という大仕事を委ねられたゼルバベル、かつての偉大な指導者であるダビデやソロモンとは違います。人間的な尺度から見て到底出来るはずがない！牧師も伝道者も主の働き人の誰もが抱く思いではないでしょうか。自分にはできない！この「できない」ことを徹底的に教えられることが神学生時代に必要です。そのことを誰よりもよく知っておられる主はまず「みことば」をもってゼルバベルを励まします。これがあなたへの「わたしのことばだ」と。

「権力によらず、能力によらず、わたしの霊によって」

ダビデやソロモンほどではないにしても、れっきとした民の指導者でありダビデ家の血筋に連なるゼルバベル。王都が破壊され見える王座がなくなり、民がバビロニアに捕囚になった後も、主が「残された民」の代表として立てたのでした。再び「権力」に思いを寄せることがあったとしても不思議ではありません。まず軍事力を補強し財政を再建することが必要という考えも頭をよぎったかもしれません。

しかし主のみわざは数の力にはよりません。お金の力でも支援者の数でも学生数の多さでもないので。「福音派の牙城」? とんでもない! 「何もない」と思って主により頼んでいかないとダメですよ。」羽村に移って来たばかりの時に、舟喜順一先生に言われたこの一言が今も心に強く響いています。いま聖書宣教会に起こっている一連の出来事を通して、主はもう一度私たちに原点を見つめ直すようにと促しておられます。本当に痛い哀しい出来事を通して。

「能力」によってでもないのだよ。主のことは静かに、しかし確かな手応えをもって語りかけます。人間的な手腕が重要なのではないと。ダビデは神殿建築こそ委ねられなかったのですが、やがてソロモンがそれを実行できるためにヒラムとの親交を保ち実際の準備をしました。軍事組織もアキシュの下に逃れていた時にペリシテから賢く学び取っていたようです。神殿礼拝のための音楽制度も準備はダビデがしていました。それらの準備をソロモンは実行に移しました。そのような手腕がゼルバベルにあるのでしょうか。先達の、多くの人に慕われ敬われてきた指導者としての資質とか、評判の良い教えによって多くの人を魅了するというような賜物もありません。

しかし「わたしの霊によって」と主は言われます。神学校のわざは、主の御霊によってでなければ主の「みわざ」であり続けることはできないということです。どんなに立派な教師陣がいて、どんなにすばらしい設備があっても、どんなに深い霊性の神学を教えても、学生達が主のご用に間に合う器として整えられるということではないのです。

ポストモダン——「真理なき霊性」が声高らかに叫ばれ、真理の霊と偽りの霊を見分けることが難しい時代です。教会がこの世と妥協し世に受け入れられることを願う時に、「真理の御霊」は私たちのうちにおられなくなります。小さな偽りが、たとえ善意からであっても、教会をそして神学校を墮落させるのです。

ゼルバベルの前には「大きな山」がどっかと立ちはだかっています。しかし、彼の目はさらに前方に、その耳は後方からの主のことばに向かいます。「大いなる山よ。おまえは何者だ。ゼルバベルの前で平地となれ。」なんと力強いおことばでしょうか。主は「みことば」だけでなく「全地を巡る目」をもって、ことを見張り、ことを行われます。今この時、あらためて主の「みことば」に聴き、主が何を聖書宣教会を通してなそうとしておられるのかをへりくだって見きわめたいと思います。

聖書神学舎での教育の一つの大きな目標は、聖書のことばを原語から説き明かす能力を養うことだったと思います。ギリシア語とヘブル語の学びに重点が置かれ、新約釈義、旧約釈義が強調されてきた由縁です。

先日、ある牧師の方についての話を聞きました。その方はギリシア語のテキストを基に礼拝の説教に臨みますが、ヘブル語の力が無いので旧約からの説教はほとんどしないとのことでした。その方の説教に対する真摯な態度には感心しましたが、旧約からの説教は新約からのメッセージをより深く味わうのに必要なのに、と残念に思いました。

聖書神学舎の卒業生のうちでも、どれだけの方々が説教の準備に原語の聖書を用いているのでしょうか。特にヘブル語の聖書を用いている方々は少ないのではないのでしょうか。時折このようなことを耳にし、私自身も考えさせられることがあります。

このことに関してヘブル語の授業を預かっている私にも責任があります。しかし、しばしば考えさせられることですが、語学の学びには時間と専心が必要なのです。

語学の才能に恵まれた人は、新しい複数の言語を修得することができます。しかし通常の人には大変なことです。また語学を苦手に行っている人には苦痛だけが残ります。

通常能力の人にはギリシア語とヘブル語の基礎を習得していただくためには、一年時にギリシア語に専心していただき、二年時にヘブル語に専心していただく必要があるように思います。そうすると神学校教育には少なくとも四年が必要になりそうです。それでは長過ぎるとの声もありますが、世の医者にはもっともっと時間を使います。牧師養成に教会が四年位は使っても良いと思います。

一ヘブル語教師のぼやきでした。

＊

「今、次の歌を書きしるし、それをイスラエル人に教え、彼らの口にそれを置け。この歌をイスラエル人に対するわたしのあかしとするためである。」 (申命記 31 章 19 節)

「モーセは、その日、この歌を書きしるして、イスラエル人に教えた。」(申命記 31 章 22 節)

「モーセは、イスラエルの全集会に聞こえるように、次の歌のことばを終わりまで唱えた。」 (申命記 31 章 30 節)

主の御名を賛美申し上げます。

お祈りをありがとうございます。2003年に新しく出発した教会音楽科は3年が経過し、この3月、森岡泰子姉が卒業しました。姉妹をいつも主が支えられ、導かれたことを心から感謝しています。現在は、3年生で萩野由紀子姉が学んでいます。

この3年間、音楽科の教師会では、教会音楽科の使命について何度も話し合いのときを持ち、祈らされてまいりました。その中で、教会

音楽科の学びと訓練が、みことばを伝えるために、福音の宣教のために、主から召命を受けた方たちのためであることを確認し、この主の御業にともにお仕えしていくという一致へと導かれています。主に、心から感謝いたします。

私自身は、主のみことばを歌うことの意味を深く教えられた1年でした。礼拝史の学びを通して、みことばを歌うことの意味を聖書から教えられ、教会音楽の目的を確信し励まされました。冒頭にあげた申命記 31 章のみことばは衝撃的でありました。主のみわざを歌のことばに書きしるして教える、歌うことの重要な意味を聖書に確認できたことは大きな力となりました。かつてスコラ・カントルムという歌の学校がありました。今、賛美の学校への夢(まぼろし)を見えています。

教会音楽科のあゆみが、今後も主のみこころにかなって豊かに導かれますように心から願い、皆さまのお祈りをお願い申し上げます。

2006 年度 新入会生



後列左より、竹元、神田、芳田  
前列左より、正村、山口、東、宮崎

氏 名	出 身 教 会	奉仕教会
(聖書神学舎本科) [7名]		
神 田 唯 志	西堀キリスト福音教会 (日本福音キリスト教会連合)	西堀キリスト福音教会
正 村 献 三	長 野 福 音 教 会 (日本同盟基督教団)	麻布霞町教会
竹 元 献	三島めぐみチャーチ (日本同盟基督教団)	中 野 教 会
東 沙 織	北栄キリスト教会 (日本福音キリスト教会連合)	宣 教 教 会
宮 崎 成 郎	佐世保キリスト福音教会 (単 立)	立川駅前キリスト教会
山 口 尚 美	世田谷中央教会 (日本同盟基督教団)	世田谷中央教会
芳 田 秀 貴	高石聖書教会 (福 音 交 友 会)	浜田山キリスト教会

新入会生の証から

とりなしの主に期待して

ひがし  
東 沙 織

普遍的な基準を提供しない社会の中で生まれ育ち、神を知らなかった者が、主の導きによって、ここに置かれていることを心から感謝します。将来を模索しながら学生生活を送る中で、試練を通して、神様の提示される「基準」に立って生きることの祝福、また、イエス・キリストの十字架上での贖いによって示された、揺り動かされることのない私自身の価値や存在の意味

を再度教えられ、この福音を伝える者とされたいと願い、献身を決意しました。ペテロが試みに会う前から、イエス様が彼のために祈っておられ、立ち直ったら兄弟たちを力づけてやりなさいと言われたように(ルカ 22:31-32)、私にも、試練を通して、他の兄弟を助けるようにと語ってくださる主の招きに応え、いつ、いかなる時も、とりなしてくださる主に期待し、学びと訓練によって整えられていくことを願っています。

## 主を認め、歩む道

山口 尚美

小学生の頃、友人に誘われて教会学校へ通い、中学1年のキャンプで救われて受洗。しかし、そこから安心しきってしまった私は教会にも行かず、聖書も読まず、自分の行きたい道を歩んだ。そして数年後、何かに飢え渴くようなたましいの叫び…。

再び神様を求め、教会へ行き始めるようになったのが大学時代。日々の生活を通して、いかに自分が人に伝道することを恐れる者である

かを思い知らされた。「直接献身など絶対にできない」と思えば思うほど、呼ばれる声に背いているような気がしてならなかった。

やがて時が訪れ、2004年の教団宣教大会において私の一番弱いところを知る主が弱さや失敗を活かして養い、献身の道を歩ませてくださることを受けとった。それでもなお「無理です」という私に、与えられたみことばは『死に至るまで忠実でありなさい。』（黙示2：10）ここに主を認めずにはいられなかった。

今、不思議にひとすじの道が切り開かれている。主に栄光がありますように。

## 主の確かな導きによって

芳田 秀貴

私が召命の確信を頂いたのは1999年夏のことです。主はみことばをもって私に語られました。「わたしがあなたの神である」、「あなたはわたしのしもべである」、「わたしがあなたを助ける」、「わたしに従いなさい」と。そのように語られる主への応答は自分自身を献げること、自分自身の歩んできた道を捨てるということでした。しかし私は拒否し、逃げ続けまし

た。それでも主ははっきりとみことばを語り続けられました。そのことに私は本当に恐怖しました。そのような中、私は自分自身の高慢さと不信仰を痛感させられました。そのことに気づかされ、みことばに心開かれた時、ローマ12：1が示され、自分自身を献げる祈りをしました。

あれから6年半。その間も主はあらゆる障害を取り除き、確かに私を聖書宣教会に導いてくださいました。今ここにいることが主の恵みと導きであることを感謝しつつ、学びと訓練に取り組ませていただきたく思っています。

### 聖書宣教会のために祈ってくださる皆さまに

心から感謝しています。

近況と祈りの課題をお届けします。

- ☞昨年度に続き、夏の講座を急遽中止させていただくことになり、皆様にご迷惑とご心配をおかけしました。申し訳ありませんでした。
- ☞今夏のキャラバン伝道実習では、1年生と2年生の15名が4つの教会〔銚子キリスト教会（千葉県）、青梅東宣教キリスト教会（東京都）、長良キリスト教会（岐阜県）、香住丘キリスト福音教会（福岡県）〕に受け入れていただき、伝道実習のお世話になりました。
- ☞今年度は、本科に7名の新入会生が加えられ、35名の研修生と23名の聴講生を主から託されています。3年生の姉妹が病気治療に専念するために休会中です。10名が今年度の卒業・修了に向かって備えています。
- ☞教職員も主の守りの中にありますが、遠藤嘉信先生のため、ご家族と和泉福音教会のために特別のお祈りを願います。遠藤先生がALS（筋萎縮性側索硬化症）であると診断されました。今後のご奉仕のために主からの知恵と助けを必要としています。岳藤豪希先生（名誉教授）は引き続き意識障害の厳しい病床にあります。
- ☞大きな過ちを繰り返すことがないように、規約や運営体制の面からの見直しにも取り組んでいます。主の助けをいただき、適切な対応ができますように。
- ☞2005年度の決算を同封させていただきました。ただただ主のあわれみを思い、諸教会の祈りを思い、主のご期待に恐れを覚えることです。感謝します。
- ☞教会や地域の祈り会から祈り課題の請求をいただくことがあり、感謝しています。お申し出を歓迎します。

## 2005 年度 卒業生



後列左より、五十嵐、武田、青山、日下  
前列左より、喜友名、伊藤、森岡、原、渡部

氏 名	奉 仕 先
<b>(聖書神学舎本科卒業) [8名]</b>	
喜友名 恵 嗣	高松泉キリスト教会 (日本同盟基督教団)
原 ユミ子	高浜キリスト共同教会 (日本同盟基督教団)
青 山 潤	長津田キリスト教会 (日本福音キリスト教会連合)
伊 藤 暢 人	湘南ライフタウンキリスト教会 (日本福音キリスト教会連合)
渡 部 和 彦	キリスト教朝顔教会 (日本福音キリスト教会連合)
五十嵐 賢 志	五所川原福音キリスト教会 (日本福音キリスト教会連合)
日 下 健 一	霞ヶ関キリスト教会 (日本同盟基督教団)
武田 慎 治	岡谷めぐみ教会 (日本福音キリスト教会連合)
<b>(聖書神学舎教会音楽科卒業) [1名]</b>	
森岡 泰子	扶桑教会 (基督兄弟団)
<b>(聖書神学舎本科満期終了) [1名]</b>	
秋 田 康 雄	

## 学びを終えて

### 「卒業後のクイズ」

聖書神学舎本科4年課程卒業 **青山 潤** じゅん

聖書宣教会で学んだこと。それをまとめるには時間がかかるだろうと思う。そして、何を学んだのか、現場に出なければ、わからないのかも知れない。

しかし、それでも、今の段階で学んだと言えることは、みことばに生きることの特権と喜び、そして厳しさである。

聖書宣教会での聖書の学びは半端なものではなかった。そして、それを通過さえすれば良いというものでもなかった。大波のように寄せて

くる試験とレポートは戦いだった。しかし、試験の機会を与えられ、志を同じくする友とそれに向かって行けたことは幸いなことだった。

遣わされる所では、聖書宣教会のように、毎日のクイズはない。共に冗談を言い合いながら、勉強する友もいない。ひとりでみことばに向き合い、ひとりでみことばに学ばなければならぬ。恐らくこの場合のほうが大きな戦いであるだろう。

しかし、そのための学びであった。そのための厳しさであった。この戦いのために、ともに祈ってくだされば幸いである。

---

## 「神を恐れること」

聖書神学舎本科4年課程卒業 伊藤暢人<sup>のぶひと</sup>

神を恐れることを学んだ4年間であったように思います。創造主であり、贖い主であり、助け主である方を深く知ること。それは同時に、自分の罪深さと愚かさや弱さを知ることであり、聖なる方の前にひれ伏すことでありました。そしてだからこそ、キリストの十字架の贖いと復活の恵みの意味するところに深く教えられてきました。この恵みを伝えるために、今、このお方によって遣わされることを感謝しています。

---

## 「神のことを」

聖書神学舎本科4年課程卒業 喜友名恵嗣<sup>きゆうなけいし</sup>

卒業は神様の恵みだと心から思う。卒論を一年延ばし、伝道師として奉仕をしながら、論文を書く決意をしたのは一年前だった。

神様どうしてこんな苦しみを与えるのですかとの怒りがあった。そのような中で、「あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている」(マルコ8:33)というみことばが示された。神様が五年目の学びを備えているのに、自分は自分のことしか考えていない。心に突き刺さる

す。

家族持ちである者にとって、学びを継続するためには家族の理解と献身が不可欠でした。しかし恵み深い神はこの小さな家族をも守ってくださいました。

私はまだまだ未熟な者です。しかし、召してくださいました方に依り頼んでまいります。今は、「教会に仕える者」であること(コロサイ1:25)、すなわち「神のことばを余すところなく伝える」者でありたいと心から願っています。共に学んだ仲間たち、また祈り支え続けてくださった方々に感謝しつつ。

鋭い神の剣だった。そして、論文を書きながら、伝道師として教会で奉仕をしている中で、このみことばはいつも大切なことを教えてくれた。

人の思いと神の思いは違う。

当たり前のようにだが、教会で自分の思い通りにしたいと願う自分は、神のみわざに役立たないと思われた。

今は、神の御心をおこなうために、聖書宣教会で学んだことに立ち、みことばを学び続け、時には驚くほどの神のみことばに従う者とさせていたいただきたいと思う。心から感謝したい。

---

## 「主なるキリストを宣べ伝える」

聖書神学舎本科4年課程卒業 原ユミ子

本科4年課程を5年かけて学ばせていただいた。5年前、私は「私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです」と、意気込んで入会させていただいた。しかし、そのときは未だ自分が弱いことを知らなかった。5年の間には、40日間の入院2回と手術、経済的危機、卒論のための主人との別居生活などが

あり、いつも危なっかしい私は、多くの方々の祈りと支援に支えられて卒業を迎えた。

このようにして、神は、ご自身の力を明らかにされた。神は、キリストという宝を「土の器」で運ばれる。キリストの力が「弱さのうちに完全に現れる」ためである。それゆえ、今は、弱さを誇って出て行こう。自分自身ではなく、主なるキリストを宣べ伝えるのだ。私の罪のために死んでよみがえられ、私のうちに生きておられるキリストを、神のみ前で真心から語ろう。

---

## 「聖書宣教会での四年間」

聖書神学舎本科4年課程卒業 渡部和彦<sup>わたべ</sup>

二年生から三年生にかけて、説教に関して行き詰っていました。自分には説教はできないと思いました。しかし、釈義のクラスを通して、説教者がみことばから教えられることを学びました。ある説教演習を境に、語るべきポイントを主が教えてくださるようになりました。もちろんこれからも行き詰ることはあるでしょう。しかし、メッセージは主からくることを知りま

した。みことばからともに教えられる恵みに与っています。

今、入会時のみことばによって再び送り出されるように思います。「あなたがたは自分自身と群れの全体とに気を配りなさい。聖霊は、神がご自身の血をもって買い取られた神の教会を牧させるために、あなたがたを群れの監督にお立てになったのです。」社会での仕事をしないで学びに専念できた本当に感謝な四年間を後にして、妻に支えられ、多くの祈りに支えられ、任地へと赴きます。

## 「学びと交わりの豊かさ」

聖書神学舎本科3年課程卒業 五十嵐 賢志<sup>やすし</sup>

牧会の現場を休んで学びにきた3年間、恵み多き、また実り豊かな時を過ごさせていただきました。聖書原語を修得せずにもことばの奉仕をしてきたことへのある種のコンプレックスを克服させていただいたことは私にとって大きなことでした。また、ライフ・ワークであった礼拝学に関連した論文を書かせていただいたことはこの上もない感謝なことです。学びの機会を与えてくださった先生方に心より感謝申し上げます。

## 「主が導かれた宣教会」

聖書神学舎本科3年課程卒業 日下 健一<sup>くさ か</sup>

主が導かれた聖書宣教会に感謝したいと思います。入会前に聖書神学舎以外の神学校は思いもつきませんでした。友人たちが皆、そこに入会して行ったからです。しかし、入会後面食らいました。ここまで学ばせるのかと、ここまでやる意味があるかと戸惑いました。しかし、不思議な事に、自分でも理解出来ないほど、学びに引きずりこまれました。これまで、疑問に覚えていたのが少しずつ解けて行き、恵みの世界が示されているのを感じました。

## 「たとえ一人の方であっても」

聖書神学舎本科3年課程卒業 武田 慎治

入会した頃に、ある先生が「奉仕教会で、たとえ一人の方であってもたましいの救いのための関わりをもってください」とお話しくれました。

教会学校に集うようになって数ヶ月のある小生のお友達が、上級生と口論になって、部屋を飛び出しました。狭い所で震えながら縮こまって泣いていました。私は対処に戸惑いましたが、その子が落ち着くまで傍にすることにし

## 「はっきり神を知りたい」

聖書神学舎教会音楽科卒業 森岡 泰子

「はっきり神を知りたい。」

この思いの始まりは、愛する姪の白血病を通してでした。私は神を信じていました。しかし、このことで信仰は揺るがされ、迷い、激しくうろたえました。信じていた神は、一体どんな方なのか、との問いが生じたのです。そして、まるで思いつきかのようにこの神学校を受験し、不思議にも学ぶことが許されました。

ます。

学びもさることながら、時間と空間を共有した仲間が与えられたことは私にとって宝です。前任地であり母教会でもある銚子キリスト教会にとって、先に卒業された辻村先生や私がここで学ばせていただいたことで、銚子教会を訪ねてくださったり、祈ってくださる方が多く起こされたことは恵みであります。

神学校の存在とは、教会の働きであり、教会は信仰者の交わりであることをあらためて感じさせられます。学びと交わりの豊かさを覚えさせられたことでした。

何故ここまで原典での学びにこだわるのか？その理由が判ってきた時安堵感を覚えました。自由主義神学に対抗するための学びが、聖書を聖書として理解する学びがここでなされていると知ったからです。

また神様を求める魂の発する問いに重さをずっしりと感じたその時、聖書宣教会で学んでいる事の幸いを覚えました。聖書のみことばは正しく理解され語られなければならない。間違っ

て語ってはいけません。語ったとき、聴いたその人がみことばによって生かされる体験をさせられました。これこそが神様の恵みと神様に感謝しました。

ました。それから部屋に戻って、聖地旅行の写真集と一緒に見ながら、イエス様の足取りを話しました。十字架の話では「自分には悪い心がある。何をすればいいの？」と質問があり、やもめの息子の生き返りの話になると食い入るように聞いていました。後で知ったのですが、この子の家庭には、父親がいませんでした。さて、かなり長い時間が経ったようで、次の集会の準備をするために、神学生が呼ばれました。私は、もっと、この子のたましいのことに関わりを持ちたいと思いましたが、他のスタッフにゆだねることにしました。

では、一体私は、「はっきり神を知る」ことができたのでしょうか。自問自答してみると、未だです、と答えなければなりません。しかし、今私は「このお方以外に救いはない」と、申し上げることが出来ます。「このお方にこそ力がある」、そして「生きて働かれる方である」ことを、毎日確認する日々でした。それで十分であったと思っています。

個人的な事柄を通して学びが始まりましたが、これを私の内に留めておいてはいけな

## 「ともにいてくださる主のご真実」

聖書神学舎本科3年課程満期終了 秋田 康雄

「わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」(マタイ 28:20)

主はその約束通りに私にしてくださいました。主は、不信仰で不従順な私を見捨てず、深く取り扱ってくださいました。主はそれにより、私に対するご自身の大きな愛と深いあわれみを示してくださいました。それは、主が私を主のしもべ、つまり、キリストの十字架と自分の弱さだけを誇り、主の御声に聞き従い、ただ主の

栄光のため、信仰によって生きる者としてくださるためでした。主はその時、私が古い自分から解放され、主の通り良き管として神の国に生きることができることを教えてくださいました。主の取り扱いは、この私がみことばと祈りにより、神をアバ、父と慕い求め、父の御思いと御心に生きる者としてくださるためでした。主はそのための必要の全てを、特に教職員や研修生のみなさまとの愛の交わりを私に備えてくださいました。私はこの真実な方に生涯を献げ、仕えます。

## 聴講の恵み

入月 かおる

「ママ。がんばってね。」子供たちのかわいい声援に送りだされて、主人の協力と、教会の方々との理解と祈りに励まされつつ、週一回のペースで神学校に通っています。牧師夫人となって15年目、「干からびた骨に向かって、預言せよ。」とのみことばに押し出されながら、結婚以前に学んでいた神学の学びを思い切って再開しました。今から3年前のことです。本当に亀のような遅々たる歩みですが、神様の許しの中で、このような尊い時を頂いていることを神様に感謝しています。

長い道のりは教会に住んでいる私にとって幸いなりフレッシュの時でもあります。神のかたちに創られた私たちは、神との人格的關係の中に生きるように、人と被造世界の関わりの中で生きるように招かれています。この学びを頂きながら、約3年間、愛と信頼の関わりの中で育ちを経験してこなかった子供を養育する恵みにあずかりました。私はその中で、自分でも気

づき得ない暗き闇の世界があることを知りました。子供を前にして、無力さとともに、私の心が引き裂かれ、自分でも信じられないほどの苦悩、恐れや怒りが引き出されていったのです。

それは私にとって、とても貴重な経験でした。アダムとエバ以来人間が引きずってきた罪の本質が、今も私の中に脈々と波打っていました。罪の深刻さの理解が私の中で増し加わりました。人間の罪が渦巻く只中を、イエス様が人として、罪を犯すことなく、神のかたちを表現してくださいました。苦悩している人を前にして、同じ境遇にいたら自分も同じことをしていたということに気づかされました。試練の中にいる友の横で、神様が働いてくださるのを共に待つ姿勢に変わってきました。

ほんの恵みの一コマであります。主の御名をほめたたえます。

松元保羅氏は、2006年6月9日付けで会長代行を退きました。新会長が就任するまでの間、聖書宣教会は代表役員代務者と教師会議長が中心となって運営しております。

代表役員代務者 遠藤嘉信

## 編集後記・・・

足りない者に、それでもご自身の大切な働きを委ねてくださる主の前に、畏れと感謝と期待をもって新しい年度を歩んでまいりました。祈っていてくださる方々がありますことを主に感謝しています。新入会生を迎えることができ、事務局では財務管理に倉嶋兄の賜物がさらに用いられることになり、と主の恵みに感謝です。

一方で、遠藤嘉信先生の健康課題、研修生の諸課題を思い、主の教会の苦闘や同窓生からの祈りの要請を聞き、この国、この時代を想うときに、全能の主のみこころの所在を問うてひざをかがめることもしばしばです。

みこころが天で行われるように地でも行われますように。(A)